



こちらのメール配信につきましては、イプソス担当者とお名刺を交換された方、ご連絡先を頂戴した方へ弊社の最新情報等をお伝えする趣旨で配信しております。

2017 年 第 2 号 目次	
1. イプソス ジャーニー・パスファインダーのご案内	
2. Go Global! イプソスのグローバル調査のご案内	
3. 編集後記	

イプソス ジャーニー・パスファインダーのご案内

～患者体験を理解する～

ペイシェントジャーニー・MOT が可視化できる新たなアプローチ！

患者さんが疾患の兆候に気づいてから現在に至るまでの治療や受診、生活の中での不具合など、一連の患者体験を「ペイシェントジャーニー」といいます。このペイシェントジャーニーの理解は、患者中心の医療を目指すヘルスケア領域で益々重視されてきており、ご存じの方も多いと思いますが、通常の 1:1 インタビューではなかなか患者さんの本音を引き出すのが難しいといわれています。

「イプソス ジャーニー・パスファインダー」は、独自のツールを用いたインタビュー話法を用いることで、患者さんの深層心理により踏み込んだジャーニーや MOT (Moment Of Truth; 患者さんのテンションや不満、アンメットニーズがある決定的な瞬間) を明らかにすることができます。

「イプソス ジャーニー・パスファインダー」では、患者さんがどのようなきっかけで受診したり、治療変更したりしているのかなど、全体的なストーリーの中で (In-Context) 患者体験を振り返り、それぞれの出来事の背景にある感情や深層心理 (MOT)、意思決定に影響を与えた情報や人物 (タッチポイント) を、ひとつひとつ丁寧に掘り下げていくことで、より極め細やかな「パスマップ」を作成することが可能です (図 1)。マップを作り上げていく過程にゲーム要素を多く取り入れているので、患者さんにより深く課題に取り組んでもらうことができます。

図 1「イプソス ジャーニー・パスファインダー」では、独自のツールを用いることで、患者さんお一人おひとりのジャーニーや MOT、タッチポイントを丁寧に掘り下げ、きめ細やかなマップを作成します

	スやアウトプットがきちんと整理され、ビジュアル化したマップが得られるため、クライアント企業様にもペイシエントジャーニーをわかりやすく共有いただけます。
●調査手法:	定性調査 1 on 1 インタビュー(会場調査、訪問調査ともに可)
●インタビュー時間:	120 分(推奨)
●サンプル数:	10 名~20 名程度(推奨)
●納品物:	インタビュー発言録、対象者ごとのビジュアル化したパスマップ、報告書

より詳しい資料やご説明をご希望の方は、下記までお気軽にお問い合わせください。
 イプソス ヘルスケア: (hec_newsletter@ipsos.co.jp) / 03-6867-8110

Go Global! イプソスのグローバル調査のご案内

イプソス ヘルスケアには、世界 40 ヶ国以上に拠点があり、グローバルにカバーいたします
海外進出支援のための経験・ノウハウを蓄積
 日本の医薬品・医療機器市場の競争がますます激化する中、今や多くの企業様が海外に新たな販路を見出そうとしています。

一方で、海外でのビジネス展開にあたっては、国や地域によって人々の暮らしや文化、また医療保険制度などは大きく異なります。それぞれの国や地域に合った適切なアプローチを行うためには、検討すべき課題が山積みです。どのようなタイミングで、何を、どのように進めていくべきか、またその際の注意点は何か？どのようなマーケティング戦略を立てれば、ビジネスの成功に繋がるのか？クライアント企業様の、このような課題解決をサポートするのが、イプソス ヘルスケアのグローバル調査部門です。



世界トップ3の市場調査グループであるイプソスのヘルスケア部門



新興市場でナンバー1



世界40ヶ国600人以上のグローバルチーム



世界で最も幅広く疾患をカバーするシンジケート患者症例データ(リアルワールド・エビデンス)



イプソス ヘルスケアには、世界 40 ヶ国 600 名以上のヘルスケア専門のリサーチャーが、グローバルにチームを組み、豊富な知識と各国の文化理解を背景に、現地での市場調査(カスタム調査、リアルワールド・エビデンス(シンジケート患者症例データ))からビジネス・コンサルティングまでをご提供いたします。

それぞれの拠点のスタッフが現地で培った経験やノウハウを十分に活かしながら、適切なエリアやターゲット条件の設定、調査方法などのアドバイスをを行い、ビジネス課題にあった調査結果のご報告・ご提案をさせていただいております。

また、弊社オフィスがないエリアでも、近隣拠点にてカバーできますので、ほぼすべての国で調査の実施が可能です。リージョンを統括するハブにて、マルチカントリー調査を迅速に実施するなどにも対応しております。

イプソス ヘルスケアでは、日本と現地のスタッフが密に連携を取りながら、各国のさまざまな疾患について患者背景や治療実態、アンメットニーズなどを明らかにしてまいりますので、より現実的で実現可能な戦略立案等にお役立ていただけます。また、進出後のビジネスの改善・定着のために、定期的な PDCA(Plan(計画)→ Do(実行)→

Check(評価)→ Act(改善))のお手伝いなども行っております。海外調査のご依頼は、ぜひイプソス ヘルスケアまでご連絡ください。



<イプソス ヘルスケアのグローバル調査>

- 世界 40 ヶ国以上に拠点があり、グローバルにカバーいたします
- 600 名以上のヘルスケア専門のリサーチャーが、日本⇄現地と密に連携を取りながら、適切なアドバイスを行います
- 日本語・英語等のバイリンガル/マルチリンガル・スタッフが対応いたします
- 世界で最も幅広く疾患をカバーするシンジケート患者症例データ(リアルワールド・エビデンス)も、ご活用いただけます

より詳しい資料やご説明をご希望の方は、下記までお気軽にお問い合わせください。

イプソス ヘルスケア: (hec_newsletter@ipsos.co.jp) / 03-6867-8110

編集後記

1 日 30 笑、私の毎日の目標である。昔、子どもが通っていた保育園の先生から「子どもは 10 歳くらいまでに 10 万回笑って過ごす、適切に自己肯定できるようになるので、急にキレたり、ちょっとしたストレスで挫折したりすることが減るんですよ」と伺った。10 年で 10 万回、すなわち 1 年で 1 万回。1 日だと、ちょうど 30 笑くらいになる。根が単純な私は、その日から即実行。最初のうちは、毎日、子どもが笑った回数を密かにカウントしては、「今日は大成功!」「今日はうまくできなかった…」と一喜一憂していたのだが、ある時、ふと気付いた。子どもなんて放っておいても、1 時間に 30 回くらい軽く笑うもの。むしろ、家でお父さん・お母さんが怖い顔をしていたり、子どもに無関心だったりすると、家庭の雰囲気は凍りつき、笑えるものも笑えないのだと。それ以来、私自身が毎日 30 回以上笑って、いつもにこにこ笑顔でいられるよう努力している。そんな我が家の坊主も今年で 9 歳。来年で 10 万回達成なるか?! (りえ)

お問い合わせ

■ご意見・ご感想・配信停止のご連絡は、以下までお寄せください。

イプソス ヘルスケア通信 編集部

メール: hec_newsletter@ipsos.co.jp

電話 : 03-6867-8110

イプソス株式会社 <http://www.ipsos.jp/>

〒105-0001

東京都港区虎ノ門 4-3-13

ヒューリック神谷町ビル



イブソス ヘルスケアでは、
スピーディなクイック調査サービスを、
ご利用いただきやすい価格にてご提供いたします
(100サンプル55万円（税別）から)